

第17回 ソバ研究会

ソバゲノム研究の最前線

国産そばの需要に応えるためにも、ソバの生産性向上が望まれている。ここでは生産技術の向上はもちろんのこと、それを支える新たな品種の育成が不可欠である。近年、いくつもの新品種が育成されてきているが、必ずしも育成された品種数が多いとは言えず、改良の速度も期待に据えているとは言えないのが現状である。一方、この数年、ソバにおいてもゲノム情報の集積は目覚ましいものがあり、イネやダイズなどと同様にこれを活用した新品種の育成に期待が寄せられている。ゲノム情報に基づくことで、他の主要作物と同じ次元で品種開発が進むこと、ソバの育種・生産・流通・実需に関わる多くの人の多様な要求にも迅速に応えられるようになることが期待される。第17回ソバ研究会では、ソバのゲノム研究の基礎と現状、並びに育種における利用の現状について、平易に解説すると共に、ゲノム解析の基礎からその情報を利用した育種への展開について検討したい。

話題提供

- | | |
|--|------|
| ソバ遺伝子研究の現状とその育種への利用
農研機構次世代作物開発センター | 松井勝弘 |
| ソバのゲノム研究基盤の構築
京都大学農学研究科 | 安井康夫 |
| ゲノム情報を駆使したソバ重要形質の遺伝解析
筑波大学生命環境系 | 原 尚資 |

2017年2月11日(土) 13:00～16:30

筑波大学春日エリア春日講堂

主 催

筑波大学農林技術センター

共 催

筑波大学フードセキュリティ・リサーチユニット

